

令和 6 年 6 月 20 日現在

機関番号：14301

研究種目：国際共同研究加速基金（国際共同研究強化(B)）

研究期間：2018～2023

課題番号：18KK0064

研究課題名（和文）他なるものとの共存に向けた政治教育：日本先導によるアメリカ実践哲学の国際対話研究

研究課題名（英文）Political education for living with the other: A Japanese initiative in international dialogue on American practical philosophy

研究代表者

齋藤 直子 (Saito, Naoko)

京都大学・教育学研究科・教授

研究者番号：20334253

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 13,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、日本が先導し欧州三国をつなぐ国際連携を通じ、アメリカ実践哲学のグローバルな意義を解明した。教育と哲学を軸にした学際対話を通じて、不均衡の視座から調和・統合に依拠した公正概念を再考し、多元的な民主主義の実現に向けた代替的な政治教育「挑戦的インクルージョン」の実践的意義を提示することを目指した。6年間の研究活動を通じ、海外共同研究者との国際共著、編著、論文を出版することで目的を達成した。また、パリ第一大学、UCL教育研究所、ヘルシンキ大学のみならず、ボストン大学、ワーウィック大学、など、海外拠点との国際ネットワークを拡充することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

アジアと欧州の非アメリカ的視座からアメリカ哲学のグローバルな役割を解明しその政治教育への実践的意義を解明する本国際共同研究は、日本が中心的な役割を果たして各国の研究成果を統合しグローバルな問題解決に応じる日本先導型の国際哲学対話研究としての社会的意義を示すことができた。日本が海外諸拠点と連携しイニシアティブをとり、ヨーロッパポスト構造主義や京都学派の思想との接点からアメリカ哲学の実践的意義を活性化するという学術的意義を示した。

研究成果の概要（英文）：In this research, we explored the global significance of American philosophy through international collaboration between Japan and three countries in Europe. We aimed to show the practical significance of alternative political education for pluralistic democracy. Throughout six years' research activities, we published co-authored books, edited collections and articles. We have also expanded the international network with Paris 1st university, UCL Institute of Education, University of Helsinki, Boston University and Warwick University.

研究分野：アメリカ哲学

キーワード：他なるものとの共存 人間変容の政治教育 アメリカ実践哲学 哲学と教育の学際対話 欧州三国との国際連携

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

今日、政治における新たなエモーションリズムの台頭の中で(水島 2016)、政治的・経済的に不利な立場に置かれた者のみならず、「普通の」環境にある大多数の人々が自ら思考し判断し有意義な政治的自己表明をなすことは一層難しくなっている(Lyotard 1984; 1997; Thoreau 1992; 宇野 2013; 2010)。他方、移民や宗教対立をめぐる排斥的態度や包摂の不安が流布する中で差異に対する不寛容は増し、境界に生き過渡的な状態にある人々や多様で流動的なアイデンティティをもつ人々の声は抑圧される。これは、安定を脅かす「不均衡」(disequilibrium)への心理的恐れや、受け入れる側、受け入れられる側双方の悪、恐怖、嫌悪、恥など日常的な負の感情に由来する実存的不安が生み出す政治的危機であり(Nussbaum 2013, 2015)、人びとが多様な声に耳を傾け合い日々の生活の中で民主主義にコミットする「生き方としての民主主義」(Dewey 1988/1939)の危機である。多元的な声を受け入れる公正な(equitable)スペースの創造は民主主義にとっての挑戦的課題である(Young 2011)。しかし現状において、異質な者と交わることを恐れ安定的かつ確実な境界の内側で目標達成に従事する「優秀な羊」(デルヴィッツ 2016)を輩出する今日の教育は、民主主義を支える政治的市民の育成に逆機能的に作用している。技能・知識重視の市民性教育、実践性を欠く人文社会科学の高等教育、セラピー化する社会教育は、セクターに分断化され脱政治的傾向を生み出し、人間の危機に根源から応答できずにいる。不均衡をもたらす他なるものと共存するために自らの足場を揺さぶる自己批判力と、異質な者への想像力や感性を備えた政治的市民を育成することは、民主主義と教育にとって喫緊の課題である。そのためには、包摂と排斥、内部と外部の二項対立を超え、不均衡の視座から調和・統合に由来する公正概念を再考する思考様式の転換と、人間を総体的にとらえ生き方の変容をもたらすような代替的政治教育が求められる。

2. 研究の目的

本申請研究は、日本が核となるイギリス、フィンランド、フランスの欧州三国との国際共同研究を通じて、非アメリカ的な周縁の視座からアメリカ実践哲学のグローバルな意義を解明する(Bernstein 2016; European Pragmatist Conference 2018)。19世紀に誕生したアメリカ哲学は心理学、政治学、宗教学、美学などの学際的起源をもって人間を包括的にとらえ(Scheffler 1974)、二項対立を超える発想転換を促す(Bernstein 2010)、「生き方としての民主主義」の哲学である(Putnam & Putnam 2017)。本研究は、アメリカ哲学が今日のグローバルな民主主義と教育の危機に応じる可能性を解明すべく、哲学と教育を軸に、政治学、文学、美学、宗教学、社会学、フェミニズム、京都学派の思想の学際的知見を結集し、日本と欧州三国の研究者たちが人文社会科学の複眼的な視座を触発し合う双方向的対話に従事する。これを通じ、不均衡がもちうる肯定的な視座から調和・統合に根ざす公正の政治性を再構築し、安定を揺らがす他なるものとの共存を可能にする代替的政治教育の実践的意義を解明する。欧州三国の国際研究拠点(ケアの倫理と市民性教育[フランス]、宗教と承認[フィンランド]、教育における美的判断のスペース[イギリス])と連携し、日本の先導のもとにこれら諸研究活動を循環・架橋し総合的国際研究に発展させる。人間の生き方を包括的に捉える学際的視座から、人間変容の政治教育「挑戦的インクルージョン」の実践的意義を四国共同で提言する。

3. 研究の方法

「不均衡をもたらす他なるものとの共存に向けた政治教育」を共通目標として、フィンランド、フランス、イギリス、日本の各拠点での四国共同研究を連関させ、足掛け5年度(H30—H34年度)でプロジェクトを遂行する。各フェーズの研究成果を段階的に発展させてゆく。申請代表者の統括の下、研究分担者が各フェーズごとに各国連携研究者との共同体制を作る。第一フェーズは、問題の所在の批判的分析、第二フェーズは、学際的な市民性教育の哲学的解明、第三フェーズは、実践的意義の解明、を中心に行い、最終フェーズでは、国際共著の出版を通じて代替的政治教育「挑戦的インクルージョン」を提言する。

4. 研究成果

公正に依拠した政治と教育の言説の中で抑圧される逸脱者やサイレントボイスが生み出す政治生活の実存的危機を、欧州三国と日本の各国が直面する民主主義と宗教をめぐる具体的現状に即して解明した。(Saito 2019; 2020a)

コロナ禍において浮き彫りになった人間の疎外や孤立の問題を「分離の存在論」(ontology of separation)という視座から抽出し、これが同化と回収に向かうインクルージョンの教育への挑戦的な代替案となりうることを導き出した。またこれに基づく遠隔教育や言語教育のあり方を実践的意義として提示した。(Saito and Akiyama 2021)

他なる者との共存、人間変容のための政治教育、美的教育を基軸にしたリベラル・エデュケーターのあり方を提示した。(Saito and Laugier 2022; Saito 2020b; 2021; 2022b)

メンタルヘルス教育という文脈において、挑戦的インクルージョンという、正常 vs 異常の対置構図を超え、包摂に抗う代替的“インクルージョン”教育のあり方解明した。(Akiyama and Saito 2023)

アメリカ哲学のグローバルな意義を、言語に内在する性質としての「翻訳」という視座から解明し、これが代替的な政治教育にとって不可欠であることを国際的な哲学対話を通じて導き出した。(Saito, Standish, Fesmire, Colapietro, Garrison 2021; Saito 2022a)。

異質な者への想像力や感性を備えた政治市民の形成に向けて、均衡言説に基づく平等と公正に依拠した「社会的包摂(インクルージョン)」を超え、不均衡を受け入れる「挑戦的インクルージョン」の代替的政治教育を提言した。(Saito and Akiyama 2024 ; Standish and Saito 2025)

1. 国際的ネットワーク形成と国際共著の出版

UCL 教育研究所(イギリス)、パリ第一大学(フランス)、ヘルシンキ大学(フィンランド)との国際連携、および、哲学、教育、宗教、政治学、フェミニズム、美学の学際的連携を組み合わせて、国際的なネットワーク形成が発展した。また、その過程で、ミラノ大学、サピエンツァ大学(イタリア)、ボストン大学(アメリカ)、スイス連邦工科大学(スイス)、北京大學(中国)の研究者たちとの国際ネットワークが深化発展した。若手研究者の国際ネットワーク形成にも寄与した。

国内分担研究者との国際共著、海外共同研究者との国際共著が数多く出版された。またイギリス教育哲学会、アメリカ教育哲学会、アメリカ哲学促進学会等、国際会議で、本プロジェクトの成果を国際発信した。国際共同研究者らとの共著の主要成果は下記の通りである。

Naoko Saito, “From Comparison to Translation: Mutual Learning between East and West,” in *East Asian Pedagogies: Education as Formation and Transformation Across Cultures and Borders*, David Lewin and Karsten Kenklies (Eds.) (Springer, 2020a): 179-190.

Naoko Saito, “John Dewey (1859-1952): Democratic Hope through Higher Education,” in *Philosophers on the University: Reconsidering Higher Education*, Ronald Barnett and Amanda Fulford (Eds.) (Springer, 2020b): 163-175.

Naoko Saito and Tomohiro Akiyama, “Distance Education and Pursuit of the Common at the Time of COVID-19: Ontology of Separation,” *Philosophy of Education 2021* (2021).

Naoko Saito, “Reply to Critics” (Book symposium, American Philosophy in Translation by Naoko Saito), *The Pluralist*, Vol. 7. No. 1 (2022a): 119-124.

Naoko Saito, “Philosophy as Autobiography: From *Must We Mean What We Say?* to *Little Did I Know*,” in *Cavell’s Must We Mean What We Say? at 50*, eds. Greg Chase, Juliet Floyd, and Sandra Laugier (Eds) (Cambridge University Press, March 2022b): 151-166.

Naoko Saito, “Cultivating the *Sapientist*: Democracy, Education and the Possibilities of Pragmatism,” *Dewey Studies*, Vol. 5, No.2 (2021): 293-305.

Naoko Saito, Sandra Laugier, “Introduction to the Suite: Political education or human transformation”, *Journal of Philosophy of Education*, Vol.56 (Nov. 2022): 863-865.

Paul Standish and Naoko Saito, “Learning and Human Development,” in Thompson, Winston C., ed., *The Philosophical Foundations of Education*, London: Bloomsbury Academic Press (2023): 101-123.

Naoko Saito and Tomohiro Akiyama, “Global Pragmatism and Higher Education,” *The Bloomsbury Handbook of Pragmatism*, ed. Sami Pihlström (Bloomsbury, 2024)

Paul Standish and Naoko Saito (eds), *Walden in Tokyo: Stanley Cavell and the Thought of Other Cultures*, Special Issue, *The Journal of Philosophy of Education*, Vol. 58 No. 6. (2025)

主たる国際会議は以下の通りである。

International Conference, “Religion, Acknowledgment and Recognition” (University of Helsinki, September 30, 2019).

International Conference, "Political Education and the Pandemic" (November 6, 2020) (Online).

Naoko Saito (with Paul Standish, Steven Fesmire, Vincent Colapietro and Jim Garrison), "Naoko Saito's *American Philosophy in Translation* (2018)," at the panel, "Author-Meets -Critics Discussion," at the Annual Meeting of the Society for the Advancement of American Philosophy (Friday, March 12, 2021, online)

International Conference, "Political Education and the New Ordinary" (November 23, 2021) (Online).

International Conference, Good and Evil: Political Education and the Future of Humanities (International Conference, February 17-18, 2022, (Online).

Naoko Saito, "Dewey's Views on Science and the Possibilities of Liberal Arts Education" (International Conference, "Pragmatism and Scientific Practice – Historical and Applied Perspectives," August 11, 2022 [ETH, Zürich]).

Naoko Saito, "William James, education of grownups and the future of humanities" the International Panel, "William James and the Value of the Humanities" (European Pragmatist Conference, August 3-5, 2022 (UCL)

International Workshop, "Democracy to Education" (Paris 1st University, December 16, 2022).

Naoko Saito and Tomohiro Akiyama, "The Great Nest of Being: Toward an Integral Studies as a New Postmodern Paradigm," International Conference, "Cultivating Mental Health and the Whole Person: Two complementary day conferences promoting thinking across cultures" (University of Warwick, December 15, 2023)

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計29件（うち査読付論文 23件 / うち国際共著 15件 / うちオープンアクセス 18件）

1. 著者名 Naoko Saito	4. 巻 76(6)
2. 論文標題 Bridging Gender Divides: Towards Transcendentalist Feminism	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Educational Theory	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 齋藤直子	4. 巻 5
2. 論文標題 翻訳としての哲学(Philosophy as Translation)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 未来哲学	6. 最初と最後の頁 90-119
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齋藤直子	4. 巻 31
2. 論文標題 デューイの科学観に基づく大学教育への提言	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 近代教育フォーラム	6. 最初と最後の頁 51-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Naoko Saito and Sandra Laugier	4. 巻 56.6
2. 論文標題 Introduction to the Suite: Political Education and Human Transformation	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Philosophy of Educaiton	6. 最初と最後の頁 863-865
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/1467-9752.12715	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Naoko Saito and Tomohiro Akiyama	4. 巻 56.2
2. 論文標題 On the Education of the Whole Person: Cross-Cultural Dialogue	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Educational Philosophy and Theory	6. 最初と最後の頁 153-161
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/00131857.2022.2098715	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 瀬平劉, アントン	4. 巻 9
2. 論文標題 日本の大学におけるスキーマ教授学の可能性	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 基幹教育紀要	6. 最初と最後の頁 33-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15017/6769087	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Anton Sevilla-Liu	4. 巻 26
2. 論文標題 ACT and the Kyoto School of Philosophy: Interdisciplinary dialogues on personhood, ethics, and becoming	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Contextual Behavioral Science	6. 最初と最後の頁 173-180
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jcbs.2022.09.008	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Anton Sevilla-Liu	4. 巻 41.2
2. 論文標題 Acceptance and Commitment Therapy and Narrative Practice: A Practically Grounded Examination of Theories and Worldviews	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Systemic Therapies	6. 最初と最後の頁 17-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1521/jsyt.2022.41.2.17	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tomohiro Akiyama	4. 巻 7.4
2. 論文標題 Integral Studies and Integral Practices for Humanity and Nature	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Philosophies	6. 最初と最後の頁 82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/philosophies7040082	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Naoko Saito	4. 巻 5(2)
2. 論文標題 Cultivating the Sapientist: Democracy, Education and the Possibilities of Pragmatism	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Dewey Studies	6. 最初と最後の頁 293-305
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Naoko Saito	4. 巻 17.1
2. 論文標題 Reply to Critics (book Symposium, American Philosophy in Translation by Naoko Saito)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 The Pluralist	6. 最初と最後の頁 119-124
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Naoko Saito, Tomohiro Akiyama, et. al.	4. 巻 56.2
2. 論文標題 Philosophical Reflections on Modern Education in Japan: Strategies and Prspects	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Educational Philosophy and Theory	6. 最初と最後の頁 95-106
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/00131857.2021.2017884	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Tadashi Nishihira and Jeremy Rappleye	4. 巻 54.9
2. 論文標題 Unlearning as (Japanese) Learning	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Educational Philosophy and Theory	6. 最初と最後の頁 1332-1344
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/00131857.2021.1906644	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Satoji Yano and Jeremy Rappleye	4. 巻 54.9
2. 論文標題 Global Citizens, Cosmopolitanism, and Radical Relationality: Towards Dialogue with the Kyoto School?	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Educational Philosophy and Theory	6. 最初と最後の頁 1355-1366
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/00131857.2021.1897570	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hikaru Komatsu, Jeremy Rappleye, and Iveta Silova	4. 巻 65.1
2. 論文標題 Student-Centered Learning and Sustainability: Solution or Problem?	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Comparative Education Review	6. 最初と最後の頁 6-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1086/711829	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Naoko Saito	4. 巻 5
2. 論文標題 Philosophy, Education and Translation: Towards Bidirectional Academic Exchange " International Panel, " Internationalization of Philosophy of Education in the Age of Globalization, " online journal of Japan Philosophy of Education	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Online Journal of Japan Philosophy of Education	6. 最初と最後の頁 71-86
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Hiraku Komatsu and Jeremy Rappleye	4. 巻 19(2)
2. 論文標題 Rearticulating PISA	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Globalisation, Societies, and Education	6. 最初と最後の頁 245-258
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/14767724.2021.1878014.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Anton Sevilla-Liu	4. 巻 55(1)
2. 論文標題 Mori Akira's Education for Self-Awareness: Lessons from the Kyoto School for Mindful Education	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Philosophy of Education	6. 最初と最後の頁 243-262
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 齊藤直子	4. 巻 121
2. 論文標題 哲学、教育、翻訳：双方向的な学術交流に向けて	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 教育哲学研究	6. 最初と最後の頁 32-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Naoko Saito	4. 巻 39
2. 論文標題 "Response: Naoko Saito, Finding as Founding: Rejoinder to Rene Arcilla's Review	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Studies in Philosophy and Education	6. 最初と最後の頁 677-680
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Naoko Saito	4. 巻 54(5)
2. 論文標題 American Philosophy, Translation and the Time of the Pandemic: A Rejoinder to Ruth Heilbronn and Adrian Skilbeck	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Philosophy of Education	6. 最初と最後の頁 1306-1313
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/1467-9752.12496	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Rappleye, J., K. Hikaru, K. Krys, Y. Uchida, and H. Markus	4. 巻 35.2
2. 論文標題 Better Policies for Better Lives '?: Constructive Critique of the OECD 's (Mis)measure of Student Well-Being	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Education Policy (Online)	6. 最初と最後の頁 258-282
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/02680939.2019.1576923	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Komatsu, H., and Rappleye, J.	4. 巻 3.1
2. 論文標題 Reimagining Modern Education: Contributions from Japanese Philosophy and Practice?	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 East China Normal Review of Education	6. 最初と最後の頁 20-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/2096531120905197	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Silova, I., Rappleye, J., You Yun	4. 巻 3.1
2. 論文標題 Beyond the Western Horizon in Educational Research: Toward a Deeper Dialogue About Our Interdependent Futures	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 East China Normal Review of Education	6. 最初と最後の頁 3-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/2096531120905	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Komatsu, H., Rappleye, J., and Silova, I	4. 巻 26
2. 論文標題 Culture and the Independent Self: Obstacles to Environmental Sustainability?	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Anthropocene (online)	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.ancene.2019.100198	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Sevilla, Anton Luis	4. 巻 41
2. 論文標題 Aida (Inter-) als Narrativ: Eine Relekture der Aidagara-Ethik von Watsuji Tetsuro	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Polylog	6. 最初と最後の頁 57-78
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 荒井祐介	4. 巻 56.3
2. 論文標題 民主的市民の政治的態度形成と政治教育	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 政経研究	6. 最初と最後の頁 431-460
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齋藤直子	4. 巻 86.2
2. 論文標題 翻訳としての哲学: <他> 方向的な国際学術交流に向けて	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 教育学研究	6. 最初と最後の頁 162-175
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11555/kyoiku.86.2_162	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yusuke Arai	4. 巻 13
2. 論文標題 Modern Democratic Theories and Political Education in Japan	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Educational Studies in Japan: International Yearbook	6. 最初と最後の頁 67-79
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.7571/esjkyoiku	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

[学会発表] 計22件(うち招待講演 6件/うち国際学会 14件)

1. 発表者名 Naoko Saito and Tomohiro Akiyama
2. 発表標題 The Great Nest of Being: Toward an Integral Studies as a New Postmodern Paradigm
3. 学会等名 International Conference at Warwick University, "Cultivating Mental Health and the Whole Person: Two Complimentary Conferences Promoting Thinking Across Cultures" (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Naoko Saito
2. 発表標題 Uncommon Schooling Out of School
3. 学会等名 International Workshop at Paris1st University, "Education Out of School: Education to Democracy in Times of Crisis" (招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Naoko Saito
2. 発表標題 Dewey's Views on Science and the Possibilities of Liberal Arts Education
3. 学会等名 International Conference, "Pragmatism and Scientific Practice: Historical and Applied Perspectives," August 11, 2022 [ETH, Zurich] (招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Naoko Saito
2. 発表標題 William James, education of grownups and the future of humanities
3. 学会等名 European Pragmatist Conference (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Naoko Saito
2. 発表標題 The Contextual Whole: James, Wittgenstein and Cavell
3. 学会等名 "Pragmatism and the Philosophy of Practices: Continental Interactions with Genealogy, Hermeneutics, Phenomenology, Post-structuralism." (Universita deli Studi di Milano) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Naoko Saito
2. 発表標題 Cavell, Sandel, and the Idea of Merit
3. 学会等名 International Workshop, "Democracy to Education," Paris 1st University (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Anton Sevilla-Liu
2. 発表標題 CBS, Values, and the I-Thou Relation
3. 学会等名 "Political Education and the Future of Humanities" (国際共同研究強化B 国際会議[オンライン]) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 瀬平 劉, アントン
2. 発表標題 CBS、ナラティブ研究、機能的-記述の文脈主義
3. 学会等名 ACT Japan 年次大会 (早稲田大学、東京)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Naoko Saito
2. 発表標題 Cultivating the Sapienstist: Democarcy, Eduation and the Possibilities of Pragmatism
3. 学会等名 Online seminar, "Political Education and the New Ordinary" (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Anton Sevilla-Liu
2. 発表標題 ACT and the Kyoto School of Philosophy: Mori Akira and the Four Layers of Personality
3. 学会等名 Association of Contextual Behavioral Science World Conference (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Jeremy Rappleye
2. 発表標題 Future Directions for Japanese Education: Globalization, International Comparison, And Self-Image in Education
3. 学会等名 中央教育審議会 会合
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Jeremy Rappleye
2. 発表標題 Japanese Education 2030: Beyond 'Catch-Up'
3. 学会等名 文部科学省 研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Naoko Saito
2. 発表標題 Naoko Saito's American Philosophy in Translation: Author-Meets-Critics Discussion"
3. 学会等名 Society for the Advancement of American Philosophy (online) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Naoko Saito and Tomohiro Akiyama
2. 発表標題 Distance Education and Pursuit of the Common at the Time of COVID-19: Ontology of Separation
3. 学会等名 Online International Conference, "Political Education and the Pandemic" (online) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 荒井祐介
2. 発表標題 民主主義理論と政治教育
3. 学会等名 日本大学法学部学内学会・研究所合同研究会 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Naoko Saito
2. 発表標題 Recognition and Acknowledgment in Honneth and Cavell
3. 学会等名 International Conference, "Religion, Acknowledgment and Recognition" (University of Helsinki) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Naoko Saito
2. 発表標題 The Soul and its Society: Dewey, Cavell and Wittgenstein
3. 学会等名 International Conference, "Wittgenstein and Pragmatism" (Sapienza University) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Naoko Saito
2. 発表標題 From Recognition to Acknowledgment
3. 学会等名 アメリカ哲学フォーラム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yusuke Arai
2. 発表標題 Political Education and Bernstein's Engaged Fallibilistic Pluralism
3. 学会等名 アメリカ哲学フォーラム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Sevilla, Anton Luis
2. 発表標題 Why Do We Need Self-Awareness? Mori Akira 's Struggle with Dewey
3. 学会等名 アメリカ哲学フォーラム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Naoko Saito
2. 発表標題 Continuing education with Stanley Cavell
3. 学会等名 Celebrating the Life and Work of Stanley Cavell (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 セビリア・アントン
2. 発表標題 ナラティブ教育の教育人間学的位置づけ・理論・応用 森昭、マクアダムス、エプストン&ホワイト
3. 学会等名 九州教育学会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計13件

1. 著者名 Paul Standish and Naoko Saito	4. 発行年 2025年
2. 出版社 Oxford Academic	5. 総ページ数 -
3. 書名 Walden in Tokyo: Stanley Cavell and the Thought of Other Cultures (Special Issue, Journal of Philosophy of Education)	

1. 著者名 Paul Standish and Naoko Saito	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Bloomsbury Academic Press	5. 総ページ数 22
3. 書名 Learning and Human Development," in Educational Foundations, Vol. 1. Philosophical Foundations of Education, Winston C. Thompson (Ed.)	

1. 著者名 Naoko Saito and Tomohiro Akiyama	4. 発行年 2024年
2. 出版社 Bloomsbury	5. 総ページ数 12
3. 書名 "Global Pragmatism and Higher Education," The Bloomsbury Handbook of Pragmatism, ed. Sami Pihlstrom	

1. 著者名 齋藤直子	4. 発行年 2023年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 2
3. 書名 「多文化主義とコスモポリタニズム」『教育哲学事典』	

1. 著者名 齋藤直子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 2
3. 書名 「エマーソン」『教育哲学事典』	

1. 著者名 Sevilla-Liu, Anton	4. 発行年 2022年
2. 出版社 John Wiley & Sons Ltd.	5. 総ページ数 7
3. 書名 "Non-Theistic Ethics." In Encyclopedia of Religious Ethics, ed. William Schweiker.	

1. 著者名 小松 光, ジェルミー・ラプリー	4. 発行年 2021年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 240
3. 書名 日本の教育はダメじゃないー国際比較データで問いなおす	

1. 著者名 荒井祐介ほか	4. 発行年 2021年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 224
3. 書名 議会制民主主義の揺らぎ	

1. 著者名 Naoko Saito	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 12
3. 書名 "Democratic Hope through Higher Education," in Philosophers on the University: Reconsidering Higher Education, Ronald Barnett and Amanda Fulford (Eds.)	

1. 著者名 Naoko Saito	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 12
3. 書名 "From Comparison to Translation: Mutual Learning between East and West," in East Asian Pedagogies: Education as Formation and Transformation Across Cultures and Borders, David Lewin and Karsten Kenklies (Eds.)	

1. 著者名 Iveta Silova, Jeremy Rappleve and Euan Auld	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 37
3. 書名 "Beyond the Western Horizon: Rethinking Education, Values, and Policy Transfer," In G. Fan & T. Popkewitz, Handbook of Education Policy Studies	

1. 著者名 セビリア・アントン	4. 発行年 2020年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 43
3. 書名 「教育におけるマインドフルネスと無心」(坂井祐円、西平直編)『無心のケア』	

1. 著者名 荒井祐介	4. 発行年 2018年
2. 出版社 八千代出版	5. 総ページ数 269
3. 書名 「福田政権」岩渕美克・岩崎正洋編『日本の連立政権』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

Naoko Saito's Website
<https://nsaito.educ.kyoto-u.ac.jp/>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	R a p p l e y e J e r e m y (Rappleeye Jeremy) (00742321)	京都大学・教育学研究科・准教授 (14301)	
研究分担者	荒井 祐介 (Arai Yusuke) (30422562)	日本大学・法学部・准教授 (32665)	
研究分担者	瀬平劉 アントン (Sebira Anton) (50754438)	九州大学・基幹教育院・准教授 (17102)	
研究分担者	秋山 知宏 (Akiyama Tomohiro) (90452523)	東京都市大学・付置研究所・准教授 (32678)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計7件

国際研究集会 Good and Evil: Political Education and the Future of Humanities (International Conference, February 17-18, 2022,Online)	開催年 2022年～2022年
国際研究集会 International Conference, "Political Education and the Pandemic"	開催年 2020年～2020年

国際研究集会 第六回アメリカ哲学フォーラム（京都大学）	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 International Conference, "Religion, Acknowledgment and Recognition (University of Helsinki)"	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 International Conference, "Political Education and the Pandemic" (online)	開催年 2020年～2020年
国際研究集会 International Conference, "Political Education and the New Ordinary" (online)	開催年 2021年～2021年
国際研究集会 International Conference, "Good and Evil: Political Education and the Future of Humanities" (online)	開催年 2022年～2022年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------